

# WALK in MIURA

## 荒崎海岸

2006年6月11日(日)三浦半島の荒崎海岸を歩きました。“くもり”という天気予報に期待して、町田駅から横浜線に乗ります。横浜駅で京浜急行線に乗り換えて終点の三崎口駅で下車。雨が降っています。それでも、“くもり”という天気予報を信じて、傘をさして歩き始めました。三崎口駅から城ヶ島と反対方向、北へ1キロほど“矢作入口バス停”で左折して海岸を目指します。

狭い路地を歩くと、広い砂浜に出ましたが...、薄暗い梅雨の海でした。砂浜を行くと、水上スキーを楽しむグループがテントを張り、バーベキューを楽しんでいます。今だからできることで、海水浴シーズンには絶対無理。もしかしたら私たちも同じこと？ただ邪魔なのは雨と傘なのですが、雨は土砂降りではなく、風もなく...。やがて、退屈な砂浜は、変化に富んだ岩場になり、粟谷浜漁港の小さなお店で買い物をしていると、だんだん楽しくなってきました。

荒崎海岸に着いても雨はあがらず、神社の軒下でお弁当を食べて、ここで、ウォーキングは打ち切りとして、復路はバスで三崎口駅へ。



## 予報を信じて

家を出た時ばらばらと降り出した雨は、集合場所のJR町田駅に着くと雨らしく降り始めていました。天気予報では、“くもり”となっていて、回復傾向のようです。集合時間が近づくと、小野さん、横山さん、佐藤さんと次々に現れました。「どうしますか？」という声はなく、「(雨は)止むでしょう」と天気予報に期待して前向きです。雨を恐れて中止して、その後晴れてきたら最悪！判断ミスです。でも、予定通り行ってみて雨だったら(危険を伴わなければ)まあそれはそれでよしということ。「行きましょう」

横浜駅でJR横浜線から京浜急行線に乗り換えて、10時17分三崎口駅に着きましたが、雨…。不思議なくらい、いつ来ても同じような駅前の土産物屋を物色して、ついでに、荒崎海岸への道を確認します。もしも、危険なら「こんな天気に行かないほうがいい」と言うでしょうが、「きれいなところですよ。行ってらっしゃい」と言われれば、その気になるといいます。傘をさして出発です。

## 今だからこそ

バスロータリーとなっている駅前広場の前の国道134号線を右へ進みます。歩き出せば、雨はまったく気になりません。これから晴れるという期待と、雨二モ負ケズという気分です。ちょっと満足？あたりの農作物を眺め、温暖な気候のため育



ちが良いことに感心しながら歩くこと20分、矢作入口バス停に到着。ここを円徳寺に向かって左折します。海に向かっているとはとても思えない、静かな住宅地を行くと、円徳寺手前で道幅が急に狭くなります。そして、それぞれの家の門に消化器が設置されています。ちょっと不思議に感じましたが、道が狭すぎて消防車が入れないから、消火器を自由に取り出して使えるようにしているのでしょうか。そして、海に出ました。そこは、岩場で釣りを楽しむ人がちらほら。右の方には砂浜が広がっています。しばらく砂浜歩き。砂浜では、水上スキーを楽しむグループがテントを張ってバーベキューをしています。海辺のバーベキューもいいですね。この季節だからこそできる遊び方です。







実は、6月のイベントを“鎌倉ウォーク”にしようかなとちょっと悩んだのです。雨と鎌倉と紫陽花なんてとても素敵で心惹かれます。でも、そう思う人が多いわけで、きっと人混みを見に行くことになりそうなので、ここ“荒崎海岸ハイキング”にしたのです。

## 亀としらす

和田長浜海岸を通り抜けると、いよいよ岩場歩きが始まります。雨に濡れた岩は滑りやすいところもありますが、単調で力が抜けてしまう砂浜より快適です。砂浜の中にそびえる岩をぬって進み、砂浜が途切れ岩に上りきったところにテーブルとベンチが設置されていて一休みします。ここが、佃嵐崎で、晴れていれば富士山が見えることもあるそうです。11時45分、雨が降っていなければ昼食とするのですが、もう少し先へ進むことにします。



栗谷浜漁港の手前で、体調80センチくらいある大きな亀が打ち上げられて死んでいてビックリ！そのすぐ横で漁師さんがせっせと石の裏にへばりついている釣り餌を採っています。「大きな亀ですね」と声をかけても「波に打ち上げられたんだろう」とまったく興味なし。海から上がったゴミという感じなのでしょうか...？ 私たちにしてもその亀をどうするものでもなく、立ち去ります。

漁港で岩場が途切れ、一時道路に出ます。“しらす・地だこ直

売所”と書かれた小さなお店があり、中を覗くことにしました。釜揚げしらす、生しらす、さざえ、ひじきなどが手ごろな値段で売られていました。小野さんと佐藤さんは、ここでお土産を購入します。日曜日に生しらすがあるのは珍しいので尋ねると「うちの漁船は年中無休、休むのは大時化のときだけだから」ということでした。



## 失業と三浦の海

建設中の老人ホーム(?)の脇に荒崎海岸へ向かう道があります。草木の生い茂る鬱蒼とした階段を上り、上りきったところに現れた道路を渡り、人ひとりやっと通れるほどの狭い急な階段を下ると、再び海に出ることができました。ここからが、荒崎海岸ならではの变化に富んだおもしろい海岸美を楽しむことができます。洗濯板のような岩が海へ続き、反対側は岸壁を作り、それを波と風が長年かけて浸食し洞窟となったり、縞模様を描いたりして、美しい海岸を造ったのです。

この日は、海はとても穏やかで、私たちが歩いたのは引き潮の時間でしたが、満ち潮だったり、海が少し荒れていたりすると、また、景色が変わって、さらにスリルがあるようです。ただし、満ち潮の時間で海が荒れている







と危険かもしれません。

8年前の9月に剣崎から三崎港までの海岸を歩いた時は、海が荒れていて、だんだん潮が満ちてきて濡れないように進むのが大変でした。それはそれでかなりおもしろかったのですが。そういえば、この時、町田は、失業しました。それから2年後の9月、観音崎周辺を歩いた時、失業しました。そして、今回、6月2日に失業しました。どういう因縁か失業した時、三浦半島の海岸を歩いています。あ～あ（溜め息）



## 収容バス

穴のあいた洞窟をくぐり抜けたり、断崖に作られた狭い道を通り抜けたりするうちに弁天島に到着しました。弁天島は、引き潮の時は陸つながりになって、磯遊びに最適ということですが、潮が満ちてくると確かに島となってしまう、戻るのが大変そうです。

ここから先は、江ノ島の岩屋を連想させるような、人工のりっぱな遊歩道が整備されていました。小さな入り江がいくつもあり、入り江の先は海水が浸食した洞窟となっているため、遊歩道がそれを渡るための橋となっているのです。引き潮の時間の洞窟は、雨宿りして食事をするには好都合と団体客が占領し



て、中でバーベキューを楽しんでいました。私たちも洞窟で食事をしようと考えたのですが、適当な空いている洞窟は見つからず、とりあえずバス停に向かうことにしました。荒崎公園の入口に、屋根のあるテーブルとベンチが一組あったのですが、そこもすでに先客が食事中です。

公園を出ると、それまでは断崖に遮られていた風がふきつけてきます。もちろん、雨は降り続けています。遠くにバスが停車しているのが見え、その時、歩くのは終わりにしてここからバスで三崎口駅へ戻ろうと決めました。ウルトラマラソンの大会に出ていた時、70キロを過ぎて、足が痛くなり、もうやめたいと思ったところに収容バスがやってきた時の心境ですね。停車していたバスは、私たちがたどり着く前に発車しました。次のバスまでは30分ほど時間があります。どこかで食事をしなければ…。







屋根を探してバス通りをしばらく歩くと、右手に熊野神社があり、階段を上ると神社の賽銭箱の軒下で濡れずに食事ができそうです。階段を上った分高い場所なので海も眺められて悪くありません（良くもないのですが...）。神社の軒下を借りて食事をするというのは、何回か経験があるので小野さんも横山さんも慣れっこかな？ 佐藤さんはちょっと驚いたかも？

## 津久井浜と YRP 野比

食事を終えて、バス停に戻り、13時36分のバスで三崎口駅へ。京浜急行線に乗り、ふたつの気になる駅がありました。ひとつは、“津久井浜”。津久井というと津久井湖とか津久井道を連想しますが、何か関係があるのでしょうか？ 実は、津久井湖の近くににあった津久井城は、三浦一族の津久井氏が築城したそうです。もうひとつは“YRP 野比”。YRP とは“Yokosuka Reserch Park”という研究施設の略称です。この施設は、“東京湾を望む横須賀市の丘陵地に電波情報通信技術に特化した研究開発拠点として公的な研究機関や国内外の民間研究機関が多数立地し、基礎から最先端にいたる幅広い分野の研究開発の活動を進めています”ということでした。

町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403
横山和明	195-0062	東京都町田市大蔵町 2181-4 042-735-5662
佐藤忠夫	192-0364	東京都八王子市南大沢 2-12-3 0426-76-6246

